

(4) カーボンリサイクル大学 第3期

若手社員向けに、カーボンリサイクルの知識を深めるとともにベンチャー企業との交流、実習を通してベンチャーマインドを醸成することを目的とする CR 大学プログラムを継続実施(10月-12月予定)。

(5) 広報ファンド高額寄付特典企画

カーボンリサイクル大学地域版の開催を継続。後述の社会実装ワーキンググループアクションと連動させて、自治体会員との連携のもとで実施予定。

<候補地選定のポイント>

寄付社意向、カーボンニュートラル/カーボンリサイクルに向けた自治体の熱意・推進体制、会員間連携の可能性、地場産業と連携の可能性(農林水産業含め)

→候補;山口県、山形県、北海道、長崎県 2か所程度を選定予定。

3. 研究助成活動

(1) 2022年度研究助成事業

➤ 成果発表会(9月13日)

(2) 2023年度研究助成事業

➤ 公募開始(5月10日)、公募締切(6月15日)

➤ 採択審査委員会実施(7月25日)

➤ 研究助成交付決定(研究開始)(7月下旬)

➤ 研究助成テーマに係る情報発信(8月上旬)

→NEDO、中小企業基盤整備機構、スタートアップ支援プラットフォームとの連携継続

4. 社会実装ワーキンググループアクション

➤ 竹原ワーキング成果のフォロー

➤ 次の対象地域の検討;前述の広報ファンド高額寄付企画との連動検討

5. CO2吸収源への取り組みの具体化

ネットゼロカーボンのカギとなる施策である吸収源(グリーン&ブルーカーボン)への取り組みを具体化する→第5号議案「植林ファンドの設置について」を参照

6. その他の活動

(1) 政策提言

2022年度3月に実施した会員アンケートの内容や企画委員会・社員総会での議論を反映し

て、7月末を目途に提言書提出予定

(2) インボイス制度対応

インボイス制度の導入について

2023年度中にインボイス制度の申請※1を行い、課税事業者となる方針とする

※1インボイス制度とは...2023年10月施行となる消費税に関する新たな仕入税額控除に係る制度

申請することの メリット	<ul style="list-style-type: none">・収益事業の拡大など事業範囲の拡大がしやすい・取引時において、仕入税額控除ができることが明確になることで、相手先からの契約上の安心感が生まれる
申請することの デメリット	<ul style="list-style-type: none">・収益事業等の消費税の納税※2義務が生じる・インボイスの管理など、経理上の手続きが煩雑となる

※2 納税額...CRFでは収入の多くは納税の対象とならない寄付金/会費となるため（2022年度収入では約99%）、消費税における納税額は小さい。

(3) 会員の拡充

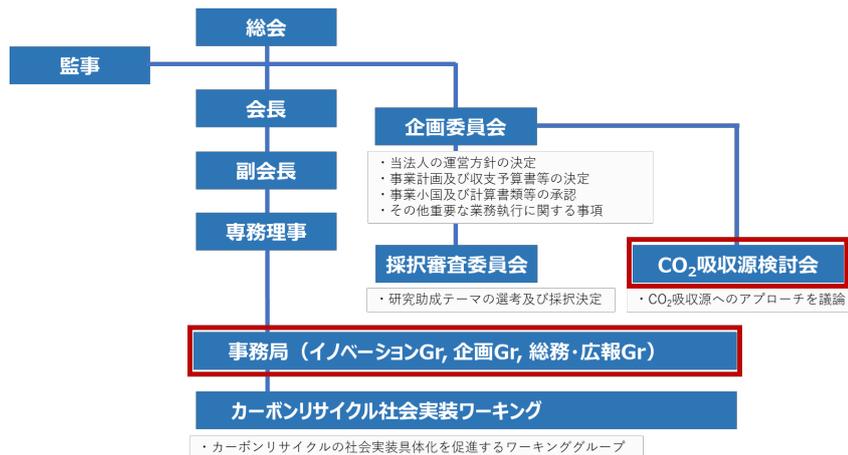
カーボンリサイクルの普及に向けて、会員企業の拡充のための説明を継続し、新規会員の獲得を図る。

(4) 事務局体制の強化

会員及び国の期待に応え一層の活動強化を図るため、以下を実施する。

・事務局 2 部制から、3Gr 制として企画 Gr を設置し、CR のアピール・普及促進に注力する。

(7月1日付)



・現在の JCOAL 間借りスペースから、至近ビルに移転を予定

(港区西新橋 2 丁目 34-7 三須ビル; 現在の Daiwa 西新橋ビル斜め向かい)

(5) 関連省庁等との連携

経済産業省、環境省、農林水産省等との連携によって、CRF 研究助成案件の国プロへの橋渡し、ワーキング派生取り組みの周知と支援要請、CR 特に吸収源に係る国際的なルール作りに向けた検討等、CR 普及に向けた環境整備を行う。

以上